

亀田地区公民館運営審議会概要

亀田地区公民館

実施年月日	第5期 第1回運営審議会	平成27年6月30日(火)
会場	江南区文化会館 講座室1	傍聴人 0人
出席者	委員	遠藤由美, 大沢美子, 石澤正明, 山倉茂美, 塚田美智子, 田村智江
	事務局 亀田地区公民館	鶴巻和仁館長, 辻 崇主任
	曾野木地区公民館	樋口栄子館長, 宮川浩一主査, 渡辺康主査
	横越地区公民館	池田忠館長, 服部尚人主査
おもな議題	(1) 平成26年度江南区公民館事業報告について (2) 平成27年度新潟市公民館事業の基本方針及び江南地区各公民館事業実施状況について (3) その他	
審議内容	議事に入る前に、今回が第5期第1回目の亀田地区公民館運営審議会となるため、委員各位から自己紹介をしてもらいました。 今回は、委員の人数が10名になり、うち、新しい委員の方が3名、継続でお願いした方が7名の体制となりました。 議長には、石澤正明委員を選出、副議長には山倉茂美委員を選出し、議事に入りました。	
	(1) 平成26年度江南区公民館事業報告について	
事務局	(事業報告説明要旨) 資料に基づき各公民館担当より平成26年度事業報告を行いました。 子どもから大人まで、家庭教育事業、高齢者への事業、地域学や、公民館祭り、文化祭の実施、スポーツ大会など、平成26年度主催、共催を含めた事業について報告を行った。 特に、各地区公民館からは家庭教育学級について、育児休暇がしっかりとれるようになったこともあってか、乳児期、幼児、児童期は申し込みもあり、参加してくれる方が多い。思春期になると、親が仕事に復帰し、時間が取れないせいか、参加者が集まりにくいという話があった。	

<p>遠藤委員</p>	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>家庭教育学級の事業で、思春期対象の講座について、横越公民館でやっている親子のコミュニケーション深めるための事業についての内容をもう少し聞きたい。</p> <p>外の館でも働き盛りの人が多いので、参加しにくいのかとも思うが、思春期の講座開催が難しいと感じているのかどうか教えてほしい。</p>
<p>事務局・服部</p>	<p>(質問・意見を受けての回答)</p> <p>昨年度は主に、性に関することが中心にすることが多かった。多くの課題があるが昨年度は、識者よりいろいろな事例を提供していただき、その中で、性の問題を取り上げている。識者の方から思春期の子供さんにもいろいろ問題があるということを親御さんに知っていただきたいという話をしてもらった。</p>
<p>蘆巻館長</p>	<p>亀田地区公民館のことについて、今回は1人の方に、5回の講座を担当してもらい、26年度は実施しています。思春期の子さんを持つ親を対象にしたが、20名のところ12名での参加。</p> <p>思春期を持つ親対象の思春期講座は参加者が少なくなる傾向。アンケートからも1回だけ出席したいなどの意見もあり、今後検討してもいいのではないかと考えている。</p>
<p>樋口館長</p>	<p>乳児期・幼児期・児童期・思春期と年齢によって、分けて公民館で講座を実施。</p> <p>社会的に育児休暇制度も取りやすくなっていることもあってか、乳児期ゆりかご学級は、参加者が多い。この講座はほとんどの公民館が実施しており、歴史がある講座です。親子二代で受ける方もいる。</p> <p>幼児期家庭学級もわりと育児休暇が取れて参加する方は多いです。</p> <p>児童期は子どもが学校に行くと、仕事があつて、募集しても参加しにくい。</p> <p>ましてや思春期も同じであり、だからやらなくてもよいということではない。健康福祉課でも思春期の講座をやり始めている。工夫してやり方を考えているが、土曜やったりとか、夜やったりとか。</p> <p>学校の行事と抱き合わせて学習会をすとか、学校と一緒にやった方がいいのではないか。それでも参加は役員だけとかになることも。出てきてほしいと思う人は出てこないという悩みもある。</p>

	<p>公民館だけでは解決が難しく、人集めは大変。育成協とか地域の人とのつながりも必要と考えています。</p> <p>運審の皆さまからもご協力お願いします。</p> <p>曾野木は児童期の講座も参加者が少なく悩んでいる。これからは教育コーディネータと協力しながら、進めたいと思います。また、区で一つの公民館で集中をさせ実施をする、という方法も考えています。</p>
塚田委員	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>樋口さんの言うことはよくわかります。</p> <p>家庭教育の学習会を、以前(40年ほど前)は大勢の方が曾野木地区公民館で学んだ。私も含めてその経験が役立っていると思う。幼児期、児童期、中学期、地域で長年学ばないと育たないと思います。</p> <p>今は親御さんが仕事で外に出ていることで、講座の参加が少ないと思いますが、これからも継続していくことが大事と思っていますので、公民館は頑張ってほしいと思います。</p>
大沢委員	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>以前、横越中学校を会場に思春期講座をやったが、本当に該当する人、中学生を持つ親たちが参加するのではなく、お孫さんのことが心配で参加した方や思春期には小さい子どもを持つ親が参加していたが、実際に思春期の子供を持つ親が参加しない。という風に感じています。</p>
塚田委員	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>個人的にこうした話を聞くという機会がなかなかない中、いい話を聞くいい機会なのに、親が忙しいということもあるのかもしれないが、少し残念。小学校では親が学校に行く日というのは割と多いが、中学になると親が学校に行く機会が少なくなっていると思うが、遠藤先生どうなのでしょう。</p>
遠藤委員	<p>部活の激励会があるときなど、オープンスクールが年に何回かあります。PTA主催で親が学ぶ機会もあります。</p> <p>いつも来る人は同じ人。</p> <p>親が参加できない事情もよくわかる。</p> <p>また、公民館で何をやっているのか、行政からの情報が市民はよくわ</p>

	<p>からない。よっぽど関心が無いと情報にたどり着けない。</p> <p>学校も情報発信は大事と思う。地域との連携も機会をとらえ、地道にやっていくしかない。学校によっては温度差があることも事実で、公民館側のアプローチが学校によっては、しやすかったり、しにくかったりということもよくわかる。参加者が少なくても地道にやっていかなければならない。</p> <p>公民館は数字を出さないといけないのだろうが、現場でもPTAでもいろいろ何とかやっていくが、お互いに上手にやっていないと思う。</p> <p>子どもの年齢の高くなった親に、もっとあきらめず、それぞれの立場で、アプローチしながら、公民館も一緒にやってほしい。</p>
事務局・池田館長	<p>以前の公民館でも人集めは大変。各小学校で家庭教育を実施してもらうことをやった。学校は大変、授業参観の後に講演会を企画。親を返さないために先生方は苦労している。</p> <p>小規模校は参加多い。大規模校は少ない。というのが傾向であった。いろいろな事業をやっていたが、だんだん参加は少なくなっているのが実情。昼間がダメなら土曜、日曜、夜間としてやるが、情報が人に届かないという現状もある。</p>
塚田委員	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>自治会回覧もやっている。人を集めるのは大変。自分のこどもがいなくても地域でかかわることも必要ではないか。</p>
田村委員	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>育成協との連携事業はどのように開催しているのか。多くの人に参加しているようであるが。</p>
事務局・辻	<p>育成協主体の事業です。平成26年度は区P連が企画し、育成協としては共催でかかわっています。</p>
田村委員	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>予算付けがどうなっているのか。</p> <p>どういったことに重点を置いて、事業をやっているのか。共催、単独事業の違いが分からない。地域によって事業差がある。地域の不公平感が生まれてきているなかで、これからどう、どのような講座を組んでいくのかがポイントになると思う。</p> <p>各区によっても集まり方に差がある。高い予算を使って行っているの</p>

	<p>に、素晴らしい講座なのに人が集まらない。これは発信力の力。</p> <p>これからの高齢社会に向けての取り組み，少子化問題への取り組みが大きな問題。大きな関心ごとになっていく。これからはこの二つをドッキングさせていかないと。</p> <p>館長さん方は今後公民館事業についてどう考えているのか聞かせてほしい。</p> <p>また，審議会の資料も事前に送ってほしい。問題点を探すにも配られてすぐには無理。よろしくお願ひしたい。</p>
鶴巻館長	<p>事業について，今回配ったものは，行った事業参加者等の事業報告のみ。予算的な部分が入っていないと思いますので，次回の資料にはデータとして出したいと思います。</p> <p>事業予算から言いますと，新潟市の公民館全体の予算は少ない。その中でやりくりしながら各種講座を行っている。</p> <p>事業評価は重点事業ですが，やったことに対して評価をして，次に活かしていくという形になっています。</p> <p>公民館単独での事業については精査して，新しいものはやるかなという形はとっています。ただし，職員が毎年異動している中，ずるずると継続しているものもあるかと思ひます。</p> <p>そうした中で，予算が少ない中，活動協力員の方，運営審議会の委員の皆さまからも今後協力をお願ひしたいと思ひています。</p>
池田館長	<p>超高齢化社会については，公民館ではもうだいぶ前から言われ，各公民館でやるようにと言われている。少子化についてもだいぶ前から言われている。今問題になっているのは結婚しない人が増えているということがよく言われ，クローズアップされている。コミ協の会議の中でも地域でよく知っている人が仲人役をして，地域で結婚する人を増やしていかないと，という話も出ている。</p> <p>予算については毎年シーリングがかかって，そのうちなくなるんじゃないかとも心配している。そうした中，委員の方々にもご協力をお願ひします。</p>
樋口館長	<p>予算が少ない，職員も少ない。そうした中で何をやれと言うのか。</p> <p>コミュニティ支援事業，地域学，家庭教育学級，現代的課題，学社民の融合による事業等やらないといけなひ。今後はいろいろ工夫しながら，地域の人材を使って，事業をやっていくことも必要と思ひます。</p>

田村委員	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>市民の力を活用して、活動協力員、企画委員などがかかわってやってもらってる。</p> <p>予算もない中、謝礼が高い先生を呼ぶ必要もないのではないか。</p> <p>やすくても、もっといい先生がいっぱいいと思います。</p> <p>市民の力を活用する公民館で頑張ってもらいたい。</p>
山倉委員	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>おはよう朝ごはん事業などは、コミ協からもらっている</p> <p>共催事業はお金を出してもらって、公民館は人材だけ出すということもやっている。</p>
樋口館長	<p>おはよう朝ごはん事業は公民館の事業ではなく、生涯学習センターの事業。公民館の職員が先生の紹介や情報提供、などを手伝いながらコミ協と一緒にやっている事業です。</p>
田村委員	<p>(委員からの質問・意見)</p> <p>そういうことであれば、事業報告の記載ももう少し考えた方がよいのでは。</p>
池田館長	<p>公民館によって、共催であっても実績として載せてる館や載せない館もあるようです。</p>
	<p>・ 平成26年度江南区公民館事業評価について</p> <p>鶴巻亀田地区公民館館長から、事業評価方法についての説明をもらったのち、亀田、曾野木、横越のそれぞれの館長から、各評価シートに基づき、説明をもらいました。</p> <p>評価については、委員の方から特にご意見質問はありませんでしたが、横越の補助金制度のことについて田村委員より質問があり、今年度限りのものであること、合併前の横越独自の制度であることを池田館長より説明がありました。</p>

(2) 平成27年度事業実施状況について	
事務局	<p>初めに、鶴巻館長より平成27年度新潟市公民館事業の基本方針について説明後、資料に基づき各公民館から事業計画について、説明を行った。</p> <p>説明終了後、特に質問もなく、平成27年度の事業実施状況について、確認、了解をいただきました。</p>
(3) その他	
<p>新潟県公民館大会について、鶴巻館長から案内及び参加者について、江南区全体で9名参加となることを報告、参加される委員の方に協力をお願いをしました。</p> <p>また、今後各館の事業開催について、委員の方に情報として、チラシ等の送付をして、事業紹介をしていきたい旨の話をさせていただきました。</p>	